

優秀賞

# 最高の一杯

静岡県 富士市立青葉台小学校五年 吉野 来南

(ドククン、ドククン)

私の心ぞうの音が、みんなに聞こえてしまいそうだ。

今日は、お茶会当日。この日のために、一生けん命おけいこし、じゅんびをしてきた。先生に、

「落ち着いて、がんばってね。」

と、せなかをおされた。心の中で、次はこうして、その次はこうする、と思っていて、いざとなると、きんちようして、手や足がカチンコチンになる。

今日のお席のテーマは、「かぐや姫」だ。かけじくやお香合、お花や花入れ、おかしにお茶わん、全てかぐや姫を思わせる物を用意した。

去年は、失敗ばかりしてしまったから、今年は、去年の分までがんばるぞという気持ちで、お点前を始めた。

今日のおかしは、先生の手作りで、すごくおいしい。

茶しゃくを持って、

「おかしをどうぞ。」

と、しっかり言えた。心の中でガッツポーズ。

「サラサラ、シャカシャカ」

と、茶せん音がひびく。「おいしくなれ」と思いついながら、一生けん命たてた。お客様にお茶を出す。

このお茶わんの底には、かぐや姫が現れるというおもてなし、お茶を飲むと、かぐや姫が現れるというおもてなし。

待っている間、「おいしくできたかな？喜んでくれるかな？」と思いついながら、正座で待つ。正座がきつい。でもがまんがまん。そう思っていると、お客様が、

「とってもおいしいお茶を飲んだら、底からかわい

いかぐや姫が出てきたわ。」  
と、笑顔で言ってくれた。思いどおり喜んでくれた。心の中で二回目のガッツポーズ。

ここからは、お点前の終ばん。建水を持って、水屋に向かう。「あとは、かたづけるだけ、なるべくなめらかにやろう」。そう思いながら、また、部屋に入る。次は、お茶わんとなつめを持って出る。「次で最後だ」と思っていたら、先生が、

「リラックス、リラックス。」

と、声をかけてくれた。部屋へ向かう。水指を持って、とびらのふちに置き、ありがたの気持ちでこめて礼をした。最後に、友達に、にこっとほほえんだ。

「やっと終わった。上手なお点前ができてよかった。」と言った。

お点前が上手に出来たのも、すごく良いことだけれども、お客様に、おいしいお茶を飲んで、帰ってもらうことが一番大切。

ただ、一度限り、もう二度とないおもてなしが出来たと思う。

これからは、「一期一会」のような出会いを大切に、おもてなしの心と、おもいやりの心をもって、みんなと接していききたいなと思った一日だった。

